

『国立国会図書館の蔵書デジタル化計画と まちの図書館、読書の未来』

講 師：徳原直子氏

(国立国会図書館電子情報部電子情報企画課)

国立国会図書館の蔵書は、すでに約 250 万点がデジタル化されています。さらに今年 3 月発表された「資料デジタル化基本計画 2016-2020」によれば、今後 5 年間で、1980 年代までに刊行された図書、刊行後 5 年以上経過した雑誌、その他古典籍、録音・映像資料などがデジタル化の対象となっていくそうです。検索利便性の向上も図られ、目次情報のテキストデータ作成、メタデータの充実、官庁出版物・非商用学術出版物の本文検索を目的とした本文のデータ化なども行われる計画です。

検索が便利になれば、求める情報の載る出版物を見つけやすくなるでしょう。しかし一方で、デジタル化した原資料の印刷物は保存のために提供されなくなっていきます。

多摩デポは、利用のために原資料の共同保存を考えてきました。3 年前に始まった「図書館向けデジタル化資料送信サービス」による絶版等資料の提供は、いま全国の図書館にどこまで普及しているのでしょうか。デジタルは原資料の代替になれるのでしょうか？

国立国会図書館の方を講師に招き、蔵書デジタル化の現状や活用の見通しを伺います。開かれる可能性を想像しながら、今後も私たちが市町村や都立の図書館に期待すること、現物保存の意味、さらに私たちの将来の読書の姿について、一緒に考えてみませんか。

日 時： 10 月 6 日(木) 午後 6 時 45 分～8 時 30 分

(開場 午後 6 時 30 分)

会 場： 国分寺労政会館 3 階第 3 会議室 (JR 国分寺駅・南口より 徒歩 5 分)



参加費無料/事前申込不要/日直接会場へ
会員でなくても、どなたでも参加できます
(台風で一度延期となり、この日に開催です！)

主催：特定非営利活動法人
共同保存図書館・多摩

〒182-0011 調布市深大寺北町 1-31-18

●HP：<http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail：depo_tama@yahoo.co.jp

●FAX：042-484-3945